

## 乳幼児冬期下痢症



乳幼児冬期下痢症は、主にロタウイルスと呼ばれるウイルスによるおなかの風邪のことを言います。以前は冬期に流行していたのですが、現在では春先に流行する事が多くなっています。

症状としては、初日に嘔吐を繰り返し、発熱も高熱が数日見られます。そして、白色の水様下痢、クリーム色の軟便が続く様になります。便は酸っぱい臭いがきつく、独特な臭いがするためおむつをあけた時の臭いで診断がつくことも多いです。多くの人は初日の嘔吐を乗り切ると大丈夫ですが、中には脱水症状が強くなり、点滴や入院になることもあります。家で突然嘔吐したときは、直後に水分を取らない様にしてください。ある程度お腹の動きが戻ってからでないと飲んでもすぐに吐いてしまいます。少し落ち着いてきたら、最初は少量の水分から取る様にしましょう(スプーン等で始めてみると良いです)。その後は嘔吐が無ければ少しずつ量を増やす様にします(10-20 ccぐらいを10分から20分間隔で頻回に継続してください)。水分としては吸収の良いお茶やイオン水が良いですよ。初日の嘔吐が続く時は、固形物は取らない様にしてください。2日目以降で吐き気が落ち着いていたら食事を再開しますが、脂肪分や糖分が多い食事は避けてください。ロタウイルスの下痢も小さい子ほど長引きやすく、1歳前の乳児では2週間程、1歳から2歳で1から2週間、2歳以上で1週間程度でしょう。2歳以下の子供で強い下痢止めを使う事はあまりありません。下痢がなかなか治まらなく、心配になりますが、水分がしっかりと取れて、おしっこもきちんと出ていたら大丈夫です。時折、おむつかぶれが起こるので、おしりが真っ赤になっているときはお尻ふきでこすらないようにして、ぬるま湯で洗う様にしておいてください。

もし夜間など救急受診したほうがいいかどうか困った場合、『こばやし内科小児科クリニック』のホームページで紹介している『こどもの救急』を活用してみてください。

こばやし内科小児科クリニック